





料頒布ナルトキハ其ノ旨、目的トスル學校並學科ノ種類、版權免許又ハ發行ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者ノ氏名及發行者ノ住所氏名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル圖書ノ冊數ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル圖書ノ定價ヲ變更シ若クハ無料頒布ノ圖書ニ定價ヲ附シ圖書中其ノ記載方ヲ變更シタルトキハ文部省ノ承認ヲ受クヘシ本項ノ承認ハ第五條ノ例ニ準シ官報廣告ヲ以テ之ヲ爲ス

第五條ニ依リ廣告シタル發行ノ年月日、著譯者ノ氏名及發行者ノ住所氏名等ニ異動ヲ生シ圖書中其ノ記載方ヲ變更シタルトキハ文部省ニ届出ツヘシ

前各項ニ該當スル圖書ハ官報ニ依リ承認又ハ届出ノ事項ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力ハ該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ與ヘタル圖書ニシテ當該學科目及其ノ程度ノ變更教授要旨並ニ教授要目ノ制定又ハ變更アリタルトキハ該圖書ノ檢定ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六十日以内ニ届出ツヘシ

第十條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムヘシ但第四條ノ指示ヲ受ケテ修正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書

ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體畫形ヲ變更シ又ハ檢定願書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ一箇年間内ニ其廉ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊表紙又ハ扉ニ年月日文部省檢定済何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童用教師用ノ別ヲ附記スヘシ

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第四條第三項第六條第七條第八條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シ又ハ情ヲ知リテ其圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ス

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ三月以下ノ禁錮ニ處ス

第十七條 圖書ハ其全部揃ヒタルモノニアラサレハ檢定セズ

第十八條 第四條第三項第六條第七條第八條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シタルトキハ原圖書ノ檢定ヲ取消スコトアルヘシ

前項並ニ第四條第三項第六條第七條第八條ニ依リ檢定ヲ取消ス圖書ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ檢定ニ關スル一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

第二十條 代理人ヲ置ク場合ニ於テハ檢定出願ノ際委任狀寫ヲ差出スヘシ其外國語ヲ以テ認メタルモノニハ譯文ヲ添附スヘシ

第二十一條 第三條第一項及第九條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ  
第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ發行者ハ次學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ圖書ノ供給ヲ止ムルコトヲ得ス但特別ノ事情アル場合ニ於テ文部省ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ニ規定セル期間滿了後其ノ圖書ノ供給ヲ止メントスルトキハ發行並ニ檢定済年月日ヲ具シ其ノ前年九月末日迄ニ文部省ニ届出ツヘシ  
第二十三條 第十四條若クハ第十五條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケス若クハ届出ヲ了セスシテ圖書ノ供給ヲ止メタル者ノ發行ニ係ル圖書ニ對シテハ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ  
第二十四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ届出ツヘシ

檢定追願  
圖書ノ名稱 卷册ノ記 著譯者ノ氏名 發行者ノ住所 修正發行目的トスル學校  
號員數 氏 名 住所氏名 年月日 並學科ノ種類  
右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書……部相添ヘ此段相願候也  
年 月 日 氏 名 印  
文部大臣宛

檢定願  
(印紙貼附ノ場所)  
圖書ノ名稱 卷册ノ記 著譯者ノ氏名 發行者ノ住所 年月日 並學科ノ種類  
號員數 氏 名 住所氏名 年月日 並學科ノ種類  
右ノ圖書御檢定相成度該圖書……部手数料金……相添ヘ此段相願候也  
年 月 日 氏 名 印  
文部大臣宛

修正檢定願  
圖書ノ名稱 卷册ノ記 著譯者ノ氏名 發行者ノ住所 修正發行目的トスル學校  
號員數 氏 名 住所氏名 年月日 並學科ノ種類  
右ハ年月日檢定済ノ處修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書……部及手数料金……相添ヘ此段相願也  
年 月 日 氏 名 印  
文部大臣宛

(乙號書式)

(丙號書式)

教科用圖書檢定規則中改正ノ件

明治三十二年四月五日  
文部省令第二十六號

明治三十年文部省令第十八號ハ同令施行前ニ發行シタル教科用圖書ニ關シテモ之ヲ適用ス但此省令ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス

說明

教科用圖書ノ紙質印刷ハ檢定出願ノモノヲ以テ標準トスヘキハ當然ノ事項ナルニ拘ラス之ヲ供給販賣スルニ當リ紙質印刷ヲ粗惡ナラシムルコト益々甚シキヲ加フルカ故ニ明治三十三年文部省令第十八號ヲ以テ是等弊害ノ取締ニ關シ嚴重ナル制裁法(罰金禁錮等)ヲ設ケタリ然ルニ尙同令施行前ノ檢定ニ係ル教科用圖書ノ紙質印刷ヲ粗惡ニシ檢定出願ノ圖書ニ比シ殆ト別本ノ觀アルモノヲ供給販賣セルモノ少カラス是レ蓋シ同令カ既往ニ遡リテ效力ヲ有セサルカ爲ナラン而シテ今日府縣ニ於テ採用セル小學校教科用圖書ハ省令第十八號施行前ニ檢定ヲ得タルモノ其大半ヲ占メ紙質印刷等ニ對スル苦情益々著キニ際スル不正ノ所業ヲ防遏シ依テ以テ教科用圖書ノ改良ヲ圖ルコトヲ得サルハ法令ノ效用ヲ完カラシムル所以ニアラス是レ此省令ヲ發布スルノ已ムコトヲ得サル所以ナリ然レトモ一朝俄ニ此弊害ヲ除カントセハ爲ニ供給ノ不足ヲ來シ却テ弊害ヲ多大ナラシムルノ憂ナシトセス即チ適當ノ猶豫ヲ與ヘテ此省令ヲ施行スル所以ナリ

●檢定出願教科用圖書ノ文字印刷等ニ關スル標準

明治三十一年十月十四日 文部省告示第六十一號

遺書 明治三十二年一月文部省告示第一九七號、昭和五年一月第二二七號、八年五月第二二二號改正 學生生徒ノ近視眼ヲ患フル者次第ニ増加スルハ教育上看過スヘカラサル所

- 分ノ一以上ノ字間ヲ存スルヲ要ス
- 三教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ行ト行トノ間ニ凡當該文字ノ大サ以上ノ行間ヲ存スルヲ要ス
- 歐文ニアリテハ師範學校中學校實業學校用ノモノハ凡三ミリメートル以上ノ行間ヲ存スルヲ要ス
- 四教科用圖書中各行ノ長サ(輪廓アルモノハ其輪廓トモ)ハ習字科用ノモノヲ除キ縱行ノモノニアリテハ小學校用ノモノハ凡十七センチメートル以下其他ノモノハ凡十六センチメートル以下横行ノモノ若クハ歐文ノモノニアリテハ凡七センチメートル以下タルヲ要ス
- 五教科用圖書ノ用紙ハ白色ニシテ光澤ナク其質強韌ナルヲ要ス且成ルヘク裏面ノ文字若クハ圖畫ノ表面ニ透ラサルモノヲ選フヘシ
- 六印刷ハ其墨色眞黒ナルヘキハ勿論著色ノ部分ト雖モ區畫整正ニシテ鮮明ナルヲ要ス
- 七掛圖ハ凡十メートルノ距離ニ於テ其記載ノ事物ヲ明瞭ニ識別シ得ルヲ要ス
- 八高等女學校教科用圖書ハ之ヲ用フヘキ學年ニ應シ師範學校中學校實業學校ノ例ニ準スヘシ

●檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書有效ノ件

明治二十年五月七日 文部省令第三號

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科

ナリ而シテ其原因多カルヘシト雖モ日常誦讀スル圖書ノ文字印刷等衛生上不適當ナルモノアルコト其一原因タラスンハアラス依テ今同學校衛生顧問ニ諮詢シ檢定出願ノ教科用圖書ニ關シ左ノ標準ヲ定ム其他參考用圖書等ニ關シテモ教師又ハ父兄ニ於テ十分ニ監督アラシムコトヲ望ム

檢定出願ノ教科用圖書ノ文字印刷等ニ關シテハ明治三十二年四月一日以後左ノ標準ニ從フヘシ

一文字

甲 漢字及假名 師範學校中學校實業學校用ノモノ 凡明朝活字 十二ポイントノ大サ以上

師範學校中學校實業學校教科用圖書中ニ用フル註解例題參照若クハ之ニ類スルモノハ凡明朝活字五號(十一ポイント)ヲ用フルコトヲ得

地圖插畫表圖等ニ用フル文字ハ師範學校中學校實業學校用ノモノニアリテハ凡明朝活字七號(五ポイント半)著色部ニハ六號マテヲ用フルコトヲ得

乙歐字

師範學校中學校實業學校用ノモノ 凡「バイカ、オールドスタイル」(十二ポイント)ノ大サ以上

師範學校中學校實業學校歐文教科用圖書中註解例題參照若クハ之ニ類スルモノノ文字ハ凡「ロンゲアリマー、オールドスタイル」(十ポイント)マテヲ用フルコトヲ得

師範學校中學校實業學校歐文教科用圖書中地圖插畫表圖等ノ文字ハ凡「ミニオン、オールドスタイル」(七ポイント)著色部ニハ「プレビア、オールドスタイル」(八ポイント)マテヲ用フルコトヲ得

二教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ文字ト文字トノ間ニ凡當該文字ノ四

用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ效ヲ有スルモノトス

●教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項

明治三十八年十二月二日 文部省告示第五十八號

教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項ヲ定ムルコト左ノ如シ

文法上許容スヘキ事項

- 一 「居リ」「根ム」「死ヌ」ヲ四段活用ノ動詞トシテ用キルモ妨ナシ
- 二 「シク・シキ」活用ノ終止言ヲ「アシシ」「イサマシシ」ナド用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
- 三 過去ノ助動詞ノ「キ」ノ連體言ノ「シ」ヲ終止言ニ用キルモ妨ナシ

例

火災ハ二時間ノ長キニ互リテ鎮火セザリシ

金融ノ靜謐ナリシ割合ニハ金利ノ引弛ヲ見ザリシ

四 「コトナリ」(異)ヲ「コトナレリ」「コトナリテ」「コトナリタリ」ト用キルモ妨ナシ

五 「ハ、セサス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

手習サス

周旋サス

實買サス

六 「、セラル」トイフベキ場合ニ「、サル」ト用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

罪サル  
評サル  
解釋サル

七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用キルモ妨ナシ

例

最優等者ニノミ褒賞ヲ得セシム

上下貴賤ノ別ナク各其地位ニ安ズルコトヲ得セシムベシ

八 依行四段活用ノ動詞ヲ助動詞ノ「シ・シカ」ニ連ネテ「暮シシ時」「過シシカバ」ナドイフベキ場合ヲ「暮セシ時」「過セシカバ」ナドトスルモ妨ナシ

例

唯一遍ノ通告ヲ爲セシニ止マレリ

九 攻撃開始ヨリ陥落マデ僅ニ五箇月ヲ費セシノミ

十 疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

例

花ヲ見ルノ記

市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ

市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ

疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

例

花ヲ見ルノ記

市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ

市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ

疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

例

史記ト漢書ノ列傳①ヲ讀ムベシ

十四 上ニ疑ノ語アルトキニ下ニ疑ノてにをばノ「ヤ」ヲ置クモ妨ナシ

例

誰ニヤ問ハン

幾何ナルヤ

如何ナル故ニヤ

如何ニスベキヤ

十五 てにをばノ「モ」ハ誤解ヲ生ゼザル限リニ於テ「トモ」或ハ「ドモ」ノ如ク用キルモ妨ナシ

例

何等ノ事由アルモ(アリトモ)講場ニ入ルコトヲ許サズ

期限ハ今日ニ迫リタルモ(タレドモ)準備ハ未ダ成ラズ

經過ハ頗ル良好ナリシモ(シカドモ)昨日ヨリ聊カ疲勞ノ狀アリ

誤解ヲ生ズベキ例

請願書ハ會議ニ付スルモ(ストモ)之ヲ朗讀セズ

給金ハ低キモ(ケレドモ)應募者ハ多カルベシ

十六 「トイフ」トイフ語ノ代リニ「ナル」ヲ用キル習慣アル場合ハ之ニ從フモ妨ナシ

例

イハユル哺乳獸ナルモノ

類回ナルモノアリ

理由書

理由書

理由書

國語文法トシテ今日ノ教育社會ニ承認セララルモノハ徳川時代國學者ノ研究ニ基キ專ラ中古語ノ法則ニ準據シタルモノナリ然レドモ之ニノミ依

國語文法トシテ今日ノ教育社會ニ承認セララルモノハ徳川時代國學者ノ研究ニ基キ專ラ中古語ノ法則ニ準據シタルモノナリ然レドモ之ニノミ依

第十二章 教科用圖書

第十二章 教科用圖書

例

有ルヤ

面白キヤ

父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ

十一 てにをばノ「トモ」ノ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

數百年ヲ經ルトモ

如何ニ批評セラルトモ

強ヒテ之ヲ遠奉セシムルトモ

十二 てにをばノ「ト」ノ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

月出ヅルト見エテ

嘲弄セララル、ト思ヒテ

終日業務ヲ取扱ハシムルトイフ

萬人皆其徳ヲ稱ヘケルトゾ

十三 語句ヲ列舉スル場合ニ用キルてにをばノ「ト」ハ誤解ヲ生ゼザルトキニ限リ最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ

例

月下花

宗教ト道德ノ關係

京都ト神戸ト長崎ヘ行ク

最終ノ「ト」ヲ省クトキハ誤解ヲ生ズベキ例

史記ト漢書①ノ列傳ヲ讀ムベシ

例

史記ト漢書①ノ列傳ヲ讀ムベシ

リテ今日ノ普通文ヲ律センハ言語變遷ノ理法ヲ輕視スルノ嫌アルノミナラズコレマテ破格又ハ誤謬トシテ斥ケラレタルモノト雖モ中古語中ニ其用例ヲ認メ得ベキモノ尠シトセズ故ニ文部省ニ於テハ從來破格又ハ誤謬ト稱セラレタルモノノ中慣用最モ弘キモノ數件ヲ舉ゲ之ヲ許容シテ在來ノ文法ト並行セシメシコトヲ期シ其許容如何ヲ國語調査委員會及高等教育會議ニ諮問セシニ何レモ審議ノ末許容ヲ可トスルニ決セリ依テ自今文部省ニ於テハ教科書檢定又ハ編纂ノ場合ニモ之ヲ應用セントス

### ●教科用圖書ノ檢定調査標準竝ニ

#### 不檢定圖書

昭和八年五月十日  
文部省告示第二百十二號

教科用圖書ノ檢定調査標準竝ニ不檢定圖書ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、師範學校中學校高等女學校實業學校小學校教科用圖書ノ檢定ハ其ノ圖書ノ組織、程度、分量、記事ノ性質、誤謬ノ多少等ニ付大體ノ調査ヲ爲スモノトス

二、師範學校中學校高等女學校實業學校修身科ノ作法、師範學校中學校國語漢文科竝ニ高等女學校實業學校國語科ノ作文、師範學校中學校高等女學校實業學校ノ實驗實習、中學校ノ作業科ニ關シテハ其ノ教科用圖書トスル圖書ニ對シ檢定ヲ行ハズ

三、實業學校ニ於ケル實業學科目竝ニ加設學科目中ノ商業、工場要項、簿記、工業、水産、農業等ニ關シテハ其ノ教科用圖書ノ目的トスル圖書ニ對シ檢定ヲ行ハズ

附則

左ノ告示ハ之ヲ廢止ス

附則

左ノ告示ハ之ヲ廢止ス

明治三十一年 文部省告示第五十九號  
明治三十七年 文部省告示第六十二號  
明治三十八年 文部省告示第十一號  
大正八年 文部省告示第二百七十三號  
昭和六年 文部省告示第二百八十四號

### ●檢定ヲ行ハサル教科用圖書

明治三十三年十月十三日  
文部省告示第二百一十一號

郷土史談及郷土地理ニ關シテハ自今教科用圖書ノ檢定ヲ行ハス但シ一地方ノ地理ニシテ教員用若ハ教授用ヲ目的トスル圖書ハ此ノ限ニアラス

### ●檢定ナキ教科用圖書使用禁止方

昭和四年十一月十五日  
發圖一〇四號文部次官通牒

各地方長官宛

師範學校、中學校、高等女學校等ノ教科用圖書ニシテ檢定ヲ聽許セラレサルモノハ其ノ都度通知致スヘキニ付教科用書トシテハ勿論參考書ノ名義ニ於テモ之ヲ使用セシメサル様嚴ニ監督相成度此段及通牒候也

第十三章 學校ノ認定、指定

# 第十三章 學校ノ認定、指定

## ●公立私立學校認定ニ關スル規則

明治三十二年六月二十八日  
文部省令第三十四號

沿革 明治三十四年三月文部省令第五號、三十八年八月第三〇號、三十七年三月第一號、四〇年一月第三號、四三年六月第一五號、大正二年三月第七號、八月第二五號、九年四月第一號、一〇年四月第二三號改正

公立私立學校認定ニ關スル規則  
公立私立學校認定ニ關スル規則

第一條 公立私立學校ニシテ文官任用令第六條ニ關シ中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學校ノ沿革
- 四 學則
- 五 學校長、學校長ナキトキハ其設立者ノ履歷
- 六 教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別
- 七 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
- 八 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
- 九 校地、校舍及寄宿舎ノ圖面
- 十 經費及維持ノ方法
- 十一 教科書目錄

### 第十三章 學校ノ認定、指定

#### 十二 教科用器具、器械及標本目錄

特別ノ規定アル場合ヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一二該當スルモノニ限ル

一 專門學校(別科ヲ除ク)及實業專門學校(別科ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者タルコト

二 實業學校ニ在リテハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ具ヘ修業年限三年以上ノモノ

三 其ノ他ノ學校ニ在リテハ其ノ學科程度、入學規則、編制及設備等中學校ノ規定ニ準スルモノ

前項第三號ノ學校ニ在リテハ其ノ教員全數ノ三分ノ一以上ハ專任タルヘク且中學校ノ程度ニ準シ中學校ト同種ノ學科目ヲ教授スル教員ニ就キテハ中學校ノ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數之ヲ有スル者ノ數ヲ超過スルヲ得ス

專門學校及實業專門學校ニ於テ中學校ト同等程度ノ豫科ヲ置キタル場合ハ前項ノ要件ニ適合スルモノタルヘシ

第三條 文部大臣又ハ地方長官ハ必要ト認メタルトキハ主務官吏ヲシテ認定ヲ受ケタル學校ノ入學試驗ニ立會ハシメ又ハ入學試驗問題及其答按ヲ査閱セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキ

ハ當該官吏ハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキ若ハ特別ノ事情ニ依リ第二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ難キトキハ公立學校ニ在リテハ其管理ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ文部大臣ニ届出ツヘキ事項ニ關シテハ各々其規定ニ依ルヘシ

設立者變更ノ場合ニ於テモ前項ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第三十九條第二項、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シテ之ヲ準用ス

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條ノ規定ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

前項ノ生徒ニ關シテハ第五條ノ表簿ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 (削除)

第八條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シ又ハ其成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向テ其認定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附則

第十條 本令ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十六年文部省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行前ニ爲シタル認定ハ尙其效力ヲ有ス但本令ニ抵觸スル

事項アルトキハ當該學校ニ於テ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ修正スヘシ

附則 明治四十三年文部省令第十五號

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ既ニ認定ヲ受ケタル學校ニ對シテモ之ヲ適用ス

### ●兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件

昭和三年四月二十四日  
陸軍省令  
文部省令

兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケントスルトキハ官立學校ニ在リテハ學校長、公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ヨリ陸軍大臣及文部大臣ニ宛テタル申請書ヲ文部大臣ニ提出スベシ

第二條 前條ノ申請ニ基キ認定ヲ爲スベキモノハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 兵役法施行令第百條第一號及第二號ニ掲グル以外ノ學校ニ在リテハ專門學校ニ準ズル私立學校ニシテ專門學校令第五條ノ資格ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノモノ又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者トシテ指定ヲ受ケタルモノ

二 兵役法施行令第百條第一號及第二號ニ掲グル學校ノ別科ニ在リテハ專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ本科卒業者ヲ以テ入學資格トスル

修業年限一年以上ノモノ又ハ專門學校令第五條ノ資格ヲ以テ入學資格トスル修業年限一年以上ノモノ

第二條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ認定ニ關スル規定ニ違反シ又ハ其ノ成績不良ナリト認ムルモノニ對シテハ陸軍大臣及文部大臣ハ將來ニ向テ其ノ認定ヲ取消スコトアルベシ

第三條 本令ニ規定スルモノノ外認定ニ關スル事項ニ付テハ公立私立學校認定ニ關スル規則ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年 陸軍省令ハ之ヲ廢止ス

兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依リ認定ヲ要スル學校ニシテ本令施行ノ際現ニ大正九年 陸軍省令ニ依リ認定セラレ居ルモノハ本令ニ依リ認定セラレタルモノト看做ス

### ●文官任用令上學校認定ニ關スル件

大正四年二月八日  
文部省令第二號

文官任用令上學校認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 大正三年十二月一日以前ニ於テ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニシテ未ダ文官任用令ニ依リ認定ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ニ於テ文官任用令ニ依リ之ヲ認定ス

第十三章 學校ノ認定、指定

### ●兵役法施行令第百條第三號並文 官任用令第六條第一號ニ依ル認

### 定諸學校

本表中  
 ○印ハ大正四年文部省令第二號第一條ニ該當ノモノ  
 △印ハ大正四年文部省令第二號第二條ニ該當ノモノ  
 右(兵)ハ兵役法施行令左(文)ハ文官任用令ノ別  
 ×印ハ陸軍省告示ニ係ルモノ

所管	學校名稱	文部省告示 (兵)年月日 (文)年月日	番號	備考
宮内省	學習院中等科元中等學科元尋常中學科	明元、六、三	六	大正九年五月學習院中等學科元尋常中學科ヲ改稱
	學習院高等科元高等學科 <small>但シ認定ノ效力ハ明治二十六年十一月十日ニ溯ル</small>	明二、六、一五	一〇三	大正九年五月學習院高等學科ヲ改稱
陸軍省	元陸軍幼年學校	明元、六、三	六	(大正九年勅令第二百三十七號ヲ以テ陸軍中央幼年學校ヲ變更)
	陸軍幼年學校	明三、一〇、二	六	明治十八年十二月工部省廢止文部省ニ轉屬
司法省	元官立司法省法政學校	明元、六、三	六	明治十八年十二月工部省廢止文部省ニ轉屬
	元工部大學校專門學及專門科	明三、一〇、元	三	明治三十四年五月東京工業學校ヲ改稱、大正十三年四月一日東京府荏原郡神奈川村ニ移轉、大正八年勅令第三十六號ヲ以テ東京工業大學トナル
陸軍省	元東京高等工業學校 <small>但シ撰科及附屬職工徒弟學校ヲ除ク</small>	明元、六、三	六	明治三十五年四月東京高等工業學校ニ附設
	元工業教員養成所本科	明三、三、八	一四	明治三十四年五月大阪工業學校ヲ改稱
大阪高等工業學校	明三、六、二	一五		

文部省	學校名稱	年月日	番號	備考
	元東京職工學校 <small>但シ速成科及撰科ヲ除ク</small>	明元、六、三	六	明治三十年六月帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱
	東京帝國大學 <small>元農學實科元林學實科元獸醫學實科</small>	明元、六、三	六	明治三十四年七月乙科廢止
	東京帝國大學農科大學 <small>元農學實科元林學實科元獸醫學實科</small>	明元、六、三	六	大正八年勅令第十三號ヲ以テ東京帝國大學農學部トナル
	東京帝國大學農科大學 <small>元農學實科元林學實科元獸醫學實科</small>	明元、六、三	六	明治三十八年告示第百十三號ヲ以テ但書追加
	元師範學校	明元、六、三	六	明治二十八年四月北海道廳ヨリ文部省ニ所轄替
	元札幌農學校 <small>但シ豫科ハ明治二十年三月以後ノ規則ニ依リタルモノ</small>	明元、六、三	六	明治四十年九月一日札幌農學校ヲ東北帝國大學農科大學トナリ、大正八年勅令第十三號ヲ以テ北海道帝國大學農學部トナル
	元札幌農學校農藝科	明三、五、九	六	
	元札幌農學校森林科	明三、五、九	六	
	高等商業學校	明三、五、九	六	
	元神戸高等商船學校附設甲種商船學校	明三、五、九	六	明治三十二年四月高等商業學校附屬外國語學校ヲ獨立改稱、大正十三年三月二十九日麹町區竹平町一番地(元文部省跡)ニ移轉
	臨時教員養成所 <small>但シ認定ノ效力ハ從前ノ卒業者ニ及フ</small>	明三、五、九	六	
	元外國語學校	明三、五、九	六	
	東京外國語學校正科	明三、五、九	六	
	元東京英語學校	明三、五、九	六	
	東京美術學校正科	明三、五、九	六	
	元東京大學豫備門	明三、五、九	六	明治三十四年四月第一、二、三、四、五高等學校醫學部ヲ千葉、仙臺、岡山、金澤、長崎醫學專門學校ト改稱
	元高等中學校豫科	明三、五、九	六	



學校名	認定・指定	備考
釜山第一公立商業學校	大正三、三、三、九	×四、六、七
善隣商業學校	大正四、三、六	三
仁川南公立商業學校	大正四、六、六	一八
新義州公立商業學校	大正三、七、五	×二八
木浦公立商業學校	大正三、七、九	×三五
京城公立商業學校	大正五、二、二	×三
仁川公立商業學校	大正五、五、三	×三三
開城公立商業學校	昭和三、六、三	×三六
大邱公立商業學校	昭和三、八、一〇	×三二
朝鮮總督府中學校	大正三、三、四	七四
釜山中學校	大正三、四、二八	一〇
平壤中學校	大正九、五、一七	三八
龍山中學校		
大田中學校		
大正十一年勅令第十九號朝鮮教育令ニ依ル	大正三、三、三	四

中等普通學校  
高等普通學校  
師範學校  
專門學校

大正十一年七月財團法人私立善隣商業學校ヲ改稱  
大正十一年四月仁川公立商業專修學校ヲ改稱

朝鮮總督府

但シ認定ノ效力ハ師範學校特科及講習科、專門學校特科並舊令ニ依リ卒業スル高等普通學校生ニ及ハス

京城第一高等普通學校	大正五、三、三、九	×二七
平壤高等普通學校	大正五、四、九	×二七
大邱高等普通學校	大正五、四、九	×二七
咸興高等普通學校	大正五、四、九	×二七
全州高等普通學校	大正五、四、九	×二七
京城第二高等普通學校	大正五、四、九	×二七
新義州高等普通學校	大正五、四、九	×二七
光州高等普通學校	大正五、四、九	×二七
東萊高等普通學校	大正五、四、九	×二七
鏡城高等普通學校	大正五、四、九	×二七
海州高等普通學校	大正五、四、九	×二七



關東廳

臺灣總督府警察官及司獄官練習所 但シ認定ノ效力ハ乙科生ニ及ハス 明治三十三年九月已後入學生徒ニ限り有效	臺灣總督府臺北師範學校小學師範部	臺灣總督府臺北師範學校公學師範部	大正十一年勅令第二十號 臺灣教育令ニ依ル 〔中學校 師範學校〕	臺北州立臺北第一中學校	臺南州立臺南第一中學校	元臺灣總督府中學校	旅順中學校	奉天中學校	鞍山中學校 撫順中學校	○南滿洲醫學堂 但シ認定ノ效力ハ 研究科生ニ及ハス	滿洲醫科大學學部同大學豫科 但シ認定ノ效力ハ 研究科及專修科生 ニ及ハス
明 三、七、六	大 九、二、八	大 九、二、八	大 一三、三、九	大 二、五、四	大 二、五、四	明 四、八、二	明 四、三、二	大 二、二、一	大 三、九、一	明 四、三、一	大 三、三、六
一七三	五四	五四	二九	四三	四三	二〇	四	四七	四三	三	三六
			大正十一年四月一日臺南州立臺南中學校ヲ改稱	大正十一年四月一日臺北州立臺北中學校ヲ改稱	大正十一年四月一日臺南州立臺南中學校ヲ改稱	大正十年臺告第八十九號ヲ以テ廢止	大正七年四月關東都督府中學校ヲ改稱				昭和二年九月陸文告示第三十八號ヲ以テ但書追加

樺太廳

元滿洲教育專門學校	南滿洲工業專門學校 但シ認定ノ效力ハ選科 生及聽講生ニ及ハス	○南滿洲工業學校	○東洋協會大連商業學校 但シ認定ノ效力ハ 夜學部生ニ及ハス	南滿洲鐵道株式會社長春商業學校 但シ徵兵令認 定ノ效力ハ專 攻科生ニ及ハ ス	樺太廳中學校	樺太廳中學校附屬小學校教員講習所	北海道廳立札幌工業學校 但シ認定ノ效力ハ木工 科生ニ及ハス大正九年 三月以後ノ卒業生ニ有 效	元夕張工業學校 大正十二年三月ノ 卒業生ヨリ適用	北海道廳立苫小牧工業學校 但シ認定ノ效力ハ 補習生ニ及ハス
大 一四、五、一六	大 二、七、三六	明 四、四、一	大 元、二、二	大 二、二、四	大 三、一〇、三〇	大 二、七、二〇	大 一〇、一、二四	大 一三、七、一〇	大 一五、三、八
×三	×元	一〇元	三六	×六 五七	一四	四八	×二 二六	×二四 四〇〇	×二
昭和八年二月關東廳告示第二十七號ヲ以テ廢止	大正十五年九月陸文告示第七十六號ヲ以テ但書中聽講 生追加		昭和七年十一月新京商業學校ト改稱				昭和十年三月限り廢止		

北海道廳立函館工業學校  
學科ニ在リテハ大正十  
二年四月入校ノ者ヨリ  
木村工藝科ニ在リテハ  
大正十三年四月入校ノ  
者ヨリ適用

△北海道廳立空知農業學校

北海道廳立十勝農業學校  
但シ認定ノ效力ハ選科  
生ニ及ハス大正十四年  
三月ノ卒業者ヨリ適用

北海道廳立永山農業學校

○元函館商業學校

元函館商業學校 但シ明治二十三年三月以  
後ノ規則ニ依リタルモノ

北海道廳立函館商業學校本科

△北海道廳立根室商業學校 但シ認定ノ效力ハ  
別科生ニ及ハス

北海道廳立小樽商業學校

北海道廳立室蘭商業學校

北海道廳立旭川商業學校

大 一五、七、一五

X七〇

明 四三、三、一五

六〇

大 一四、五、一七

X元

大 一五、三、一

X一七

明 三三、三、一五

三

明 二九、六、一五

七

明 三三、六、九

八三

明 四三、三、一五

六〇

大 六、九、一七

一四九

大 一五、二、一

X四

大 一五、四、八

X三

明治二十八年四月廢止

同前

明治三十四年六月函館商業學校ヲ改稱

昭和二年四月旭川商業學校ヲ廳立ニ變更改稱

府 縣

北海商業學校 認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス大  
正十年三月以後ノ卒業者ヨリ適用  
札幌商業學校

元北海道廳立函館商船學校 但シ認定ノ效力ハ  
專修科生ニ及ハス

北海道廳立小樽水産學校 但シ認定ノ效力ハ  
別科生ニ及ハス

札幌夜間中學

森岡夜間中學

仙台市立夜間中學

元府縣立師範學校高等師範學科  
但シ明治十四年八月文部省達師範學校教則大  
綱ニ依リタルモノ

府縣立師範學校

元府縣立中學高等中學科  
但シ明治十四年七月文部省達中學校教則大綱  
ニ依リタルモノ

府縣立中學

府縣立醫學學校 但シ明治十五年五月文部省達  
醫學學校通則ニ依リタルモノ

府縣立醫學學校

東京府立織染學校 但シ認定ノ效力ハ  
別科生ニ及ハス

東京府立工業學校 但シ認定ノ效力ハ  
撰科ニ及ハス

東京市立化學工業學校 但シ認定ノ效力ハ  
撰科ニ及ハス

大 一〇、三、一  
大 一〇、四、六  
大 一三、三、一

X一〇  
二八八  
X六

明 三三、三、一七

明 三三、三、一七

明 三三、三、一七

昭 一、四、一四

昭 一、三、一八

昭 一、三、一八

明 二九、六、一五

大 一三、三、一四

X一五

昭和十年三月限り廢止

〔明治四十年一月北海道廳立水産學校ヲ改稱  
明治四十年告示第十四號ヲ以テ但書追加〕

東京府立實科工業學校	大正十四年四月入校ノ者	大 一、五、七、一五	×七二	昭和七年四月鍛工科ヲ鍛工冶金科ニ改稱
但シ認定ノ效力ハ建築部ノ家具科、塗工科、左官科及機械部ノ鍛工科、鑄工科、木型科ニ及ハス				
東京改善工業學校	但シ認定ノ效力ハ專修科、第二本科、中等科及高等科ニ及ハス	大 一、五、七、一五	×七三	昭和二年四月陸軍省告示第十一年三月安田工業學校ト改稱
東京農業大學專門部	但シ認定ノ效力ハ選修科及聽講生ニ及ハス	明 三、一、二	三八	明治四十四年告示第二百五十四號ヲ以テ但書追加
東京農業大學學部	同豫科、究科學生及選科生ニ及ハス	大 一、四、七、三	×四三	明治四十四年二月大日本農會附屬私立東京高等農學校ヲ明治四十四年十一月十六日私立東京高等農學校ト改稱
東京農業大學學部	同豫科、究科學生及選科生ニ及ハス	大 一、四、七、三	×四三	大正八年十二月十一日私立東京農業大學ヲ改稱
麻布歌醫畜産學校	但シ認定ノ效力ハ別科生並三十八年卒業スヘキ生徒ニ及ハス	明 六、三、一〇	四	明治四十四年七月十日私立麻布歌醫學校ヲ、大正八年九月十六日私立麻布歌醫畜産學校ト改稱
東京府立園藝學校		明 四、三、二	二七	
東京歌醫學校	但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス	明 四、三、二	一六五	明治四十二年告示第二百七十三號ヲ以テ但書追加
東京府立農林學校		大 四、三、二	七四	昭和十年四月東京畜産工藝學校ト改稱
東京府立農業補習學校教員養成所		昭 二、八、二四	×三六	昭和十年四月東京府立青年學校教員養成所ト改稱
日本歌醫學校	但シ認定ノ效力ハ蹄鐵工科生ニ及ハス	明 四、九、一五	二七	明治四十五年告示第三百三十三號ヲ以テ但書追加

東京府立第一商業學校	但シ認定ノ效力ハ(第二部)生ニ及ハス	大 一、三、三、三	×六	昭和八年三月「第二部」ヲ廢止
東京府立第二商業學校	認定ノ效力ハ大正十三年三月ノ卒業者ヨリ適用	大 一、三、三、三	×一七	
元大倉商業學校本科		明 三、六、六	一七	大正八年九月十八日私立大倉商業學校ヲ改稱大正八年十一月組織變更
大倉高等商業學校	但シ認定ノ效力ハ夜學科ニ及ハス	大 九、四、三	×二	大正十二年二月陸軍省告示第四號及文部省告示第五十一號ヲ以テ但書改正
早稻田實業學校	但シ認定ノ效力ハ第二本科生及專修科生ニ及ハス	明 三、三、七	五七	明治四十五年告示第七十九號ヲ以テ夜學部ヲ置キ明治四十五年四月ヨリ開始
京華商業學校		明 三、八、二	一七	大正十三年十月私立早稻田實業學校ヲ改稱
元私立東洋商業專門學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス	明 七、七、六	一五六	大正十四年三月陸軍省告示第十四號ヲ以テ但書「專修科生」追加
中央商業學校	認定ノ效力ハ夜間部ニ及ハス	明 三、一、八	一六	昭和三年十二月「夜間部」ヲ「第二本科」ト改稱
慶應義塾商工學校		明 三、一、六	二〇六	明治三十七年告示第六十五號ヲ以テ「本科」削除
				大正九年一月一日私立京華商業學校ヲ改稱
				明治四十一年七月三十一日廢止
				大正八年九月二十二日私立中央商業學校ヲ改稱
				大正十四年三月陸軍省告示第二十四號ヲ以テ但書追加
				昭和七年三月夜間部ヲ第二本科ト改稱
				大正十三年九月私立慶應義塾商工學校ヲ改稱

○私立東洋商業學校 但シ認定ノ效力ハ夜間専修科生第二部生ニ及ハス

明三、三、三

明治四十四年告示第七十五號ヲ以テ但書ニ「夜間専修科生」追加

○元錦城商業學校

明三、三、三

昭和八年八月三十一日限閉鎖

○京北實業學校 但シ認定ノ效力ハ其ノ夜間部ニ及ハス

明四、三、三

大正十二年六月十三日私立錦城商業學校ヲ改稱

私立高千穂高等商業學校

大四、一、三

大正九年一月二十六日私立京北實業學校ヲ改稱

專修商業學校 但シ認定ノ效力ハ夜學部生ニ及ハス

大八、二、三

大正十三年三月陸軍省告示第十八號ヲ以テ但書追加

元成蹊實務學校

大八、二、三

大正八年九月二十五日私立專修實業學校ヲ、大正九年三月專修實業學校ヲ改稱

郁文館商業學校 認定ハ大正十二年三月ノ卒業者ヨリ適用

大二〇、七、六

大正十六年三月限り廢止

高輪商業學校

大二〇、七、六

大正十五年三月陸軍省告示第二十五號ヲ以テ但書ノ本科夜間部第二部生ヲ改正、昭和十一年三月安田商業學校ト改稱同年三月限第二本科及商業夜學科廢止

財團法人東京植民語學校 但シ認定ノ效力ハ本科外ニ及ハス 大正十四年三月ノ卒業者ヨリ適用

大二〇、七、六

昭和五年三月東京植民貿易語學校ト改稱

東京保善商業學校 但シ認定ノ效力ハ(第二部生)ニ及ハス

大二〇、七、六

大正十四年四月陸軍省告示第二十五號ヲ以テ但書ノ本科夜間部第二部生ヲ改正、昭和十一年三月安田商業學校ト改稱同年三月限第二本科及商業夜學科廢止

東京實業學校 但シ認定ノ效力ハ夜間部ニ及ハス

大二〇、七、六

大正十五年三月陸軍省告示第十六號ヲ以テ但書追加

昭和八年二月夜間部ヲ第二商業部ト改稱

明星實務學校

大二四、五、六

昭和四年三月三十一日限り廢止

巢鴨商業學校 但シ認定ノ效力ハ夜學部ニ及ハス

大二五、六、三

明治三十二年十月私立英吉利法律學校ヲ、明治三十六年八月私立東京法學院ヲ、明治三十八年私立東京法學院大學ヲ改稱

關東商業學校

昭二、二、三

明治三十一年十月廢止

元東京商法講習所 但シ明治十四年五月以後ノ規則ニ依リタルモノ

明元、六、三

明治三十二年十月私立英吉利法律學校ヲ、明治三十六年八月私立東京法學院ヲ、明治三十八年私立東京法學院大學ヲ改稱

○元私立水産傳習所

明七、一、七

明治三十二年十月私立英吉利法律學校ヲ、明治三十六年八月私立東京法學院ヲ、明治三十八年私立東京法學院大學ヲ改稱

○私立中央大學 但シ認定ノ效力ハ別科生選科生講義生及外國語專修科生ニ及ハス

明三、七、三

明治三十二年十月私立英吉利法律學校ヲ、明治三十六年八月私立東京法學院ヲ、明治三十八年私立東京法學院大學ヲ改稱

中央大學學部同大學豫科 但シ認定ノ效力ハ選科生講義生ニ及ハス

大九、三、四

大正九年四月大學令ニ依リ設立

○私立早稻田大學 但シ認定ノ效力ハ第二種生及甲種生ニ及ハス

明三、八、九

本學ハ初メ法律學科ノミナリシヲ明治三十二年告示第百六十三號ヲ以テ全部認定明治三十四年告示第八十二號ヲ以テ但書ニ「第二種生及追加」明治三十五年九月私立東京專門學校ヲ改稱

早稻田大學

大九、四、三

大正九年二月大學令ニ依リ設立





○國學院大學 但シ認定ノ效力ハ乙種生及選科生ニ及ハス

明三、一、四

二

○國學院大學附屬神職部 但シ認定ノ效力ハ選科生及選科生ニ及ハス

大二〇、三、三

×三

○元私立日本體育會體操學校 但シ認定ノ效力ハ普通科生ニ及ハス

昭三、六、三

×四

○元私立日本體育會體操學校 但シ認定ノ效力ハ高等師範科

昭四、四、七

二六

○元私立眞宗東京中學 但シ明治三十三年二月以後入學生徒ニ限り有效

昭九、四、六

×五

○元私立眞宗東京中學 但シ明治三十三年二月以後入學生徒ニ限り有效

大七、四、二

八五

○元私立眞宗東京中學 但シ明治三十三年二月以後入學生徒ニ限り有效

大七、四、二

一三

○元私立眞宗東京中學 但シ明治三十三年二月以後入學生徒ニ限り有效

大七、四、二

三

○元私立眞宗東京中學 但シ明治三十三年二月以後入學生徒ニ限り有效

明三、三、三

三

明治三十四年告示第九十五號ヲ以テ但書ニ「研究科乙種生」明治三十四年告示第九十一號ヲ以テ「研究科乙種生」追加明治三十七年告示第九十九號ヲ以テ但書「普通科生」普通選科生、研究科乙種生及別科生ヲ「研究科乙種生」師範部國語漢文歴史科乙種生、專修部乙種生及選科生ニ追加大正元年告示第百五十三號ヲ以テ但書中「選科生」追加大正元年告示第百五十三號ヲ以テ師範部ノ歴史科ヲ同年九月以後廢止ス

明治三十九年六月私立國學院ヲ、大正八年九月二十日私立國學院大學ヲ改稱

大正十年四月大學令ニ依リ設立

昭和四年二月國學院大學附屬神道部ト改稱

昭和九年四月廢止

大正七年告示第百三十四號ヲ以テ但書追加  
大正八年九月私立成蹊實業專門學校ヲ改稱  
大正十四年三月限リ廢止

明治三十四年十二月京都府下ヨリ移轉明治四十四年十一月一日京都府へ移轉

明治三十七年八月廢止

明治三十七年告示第二號ヲ以テ但書ニ「及高等豫科生」追加同年告示第百八號ヲ以テ但書「高等正科第二部生」

及高等豫科生ヲ「豫科生及別科生」ト改正明治四十年告示第百四十六號ヲ以テ但書「豫科生及別科生」ト改正明治四十年告示第百四十六號ヲ以テ但書中「豫科生」ト改稱  
追加大正四年告示第五十七號ヲ以テ但書中「及豫科第二部生」及ハス  
明治三十七年五月私立淨土宗高等學院ヲ、同年十月私立淨土宗大學院ヲ、明治四十年三月私立淨土宗大學ヲ改稱  
明治四十五年五月私立宗教大學分校(京都)ヲ廢止  
大正八年十月一日私立宗教大學ヲ改稱  
大正十八年三月限リ廢止

大正十五年四月大學令ニ依リ設立

大正八年九月十六日私立天台宗大學ヲ改稱  
大正十七年三月限リ廢止

明治三十九年十一月二十六日私立天台宗東部中學ヲ、大正八年九月十六日私立天台宗中學ヲ改稱、昭和二年六月廢止

明治四十年四月一日私立日蓮宗大學林ヲ改稱及學科改正ニ付專門科、高等科、中等科ハ削除  
明治四十年告示第百八號ヲ以テ但書「別科生」ヲ「研究院生及別科生」ト改正大正九年告示第七號ヲ以テ但書全部改正大正八年九月三十日私立日蓮宗大學ヲ、大正十四年一月日蓮宗大學ヲ改稱

大正十三年五月大學令ニ依リ設立

大正大學學部同大學豫科 但シ認定ノ效力ハ研究科及聽講生ニ及ハス

大正大學專門部 但シ認定ノ效力ハ佛教科別科ニ及ハス

○元天台宗大學 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス

○元天台宗中學 但シ認定ノ效力ハ明治三十六年十月十八日以前ニ入學シタル生徒ニ及ハス

○立正大學專門部 但シ認定ノ效力ハ選科生聽講生及補習科卒業者(徵兵令第十三條第一項第二號ニ依ル認定學校卒業者ヲ除ク)ニ及ハス

立正大學學部、同大學豫科 但シ認定ノ效力ハ研究院學生、選科生及聽講生ニ及ハス

233L65  
(奥付あり)

第十三章 學校ノ認定、指定

○駒澤大學專門部 別科生ニ及ハス 駒澤大學學部同豫科 研究科生ニ及ハス	○新義眞言宗智山派私立大學智山勸學院 選科生別科生ニ及ハス	○世田谷中學 但シ認定ノ效力ハ明治三十六年十二月十二日以前ニ入學シタル生徒ニ及ハス	○青山學院高等學部 但シ認定ノ效力ハ豫科第一種生及別科生ニ及ハス	○青山學院神學部 但シ認定ノ效力ハ別科生及聽講生研究科生ニ及ハス	△私立青山學院中學部	○明治學院 但シ認定ノ效力ハ特別生ニ及ハス	○明治學院高等學部 同神學部 但シ認定ノ效力ハ研究科生、別科生及聽講生ニ及ハス
明 七、六、二	大 四、三、九	明 三、二、三	明 三、九、三	明 五、三、〇	明 三、三、二	明 三、四、二	明 四、五、六
一元	〇元	三元	一元	一元	一元	一元	一元
明治三十八年一月一日私立曹洞宗大學林ヲ、大正八年十月二十三日私立曹洞宗大學ヲ、大正十四年四月曹洞宗大學ヲ改稱	大正十四年三月大學令ニ依リ設立	大正七年告示第二百七號ヲ以テ但書中選科生ヲ加フ 昭和四年四月東京府北豐島郡石神井村大字上石神井字觀音山ニ移轉 昭和四年四月智山專門學校ト改稱	大正八年九月二十六日私立曹洞宗第一中學林ヲ、大正十三年四月曹洞宗第一中學林ヲ改稱	明治三十七年告示第三十一號ヲ以テ但書中「乙種生」ヲ「別科生」明治四十三年告示第四十號ヲ以テ「豫科第二種生及別科生」追加 大正四年三月六日私立青山學院高等學科ヲ、大正十二年二月私立青山學院高等學部ト改稱 昭和四年五月青山學院專門部ト改稱	明治四十五年神學部ヲ神學部ト改ム同年告示第五百十號ヲ以テ但書ニ「研究科生」ヲ加フ 大正四年三月六日私立青山學院神學科ヲ改稱 昭和四年五月青山學院專門部ト改稱	大正四年三月九日私立青山學院中等科ヲ改稱	大正十三年四月同院神學部ヲ東京府豊多摩郡淀橋町字角宮ニ移轉 昭和三年二月明治學院ト改稱

昭和十二年五月二十八日印刷  
昭和十二年五月三十一日發行

編纂者 財團法人新潟縣教育會  
發行者 教友社代表  
印刷者 瀧 川 島 陸 平  
印刷所 新潟市西大畑町六〇一  
印刷者 澤 正 直  
印刷所 新潟市西堀通三番町  
印刷者 中外新聞社  
印刷所 新潟市西堀通三番町  
電話 一九三〇番  
印刷者 松 三  
印刷所 新潟市礎町通上一之町  
印刷所 文 松 社

發行所 教友社  
新潟市西大畑町一〇六  
振替口座長野 二六五七番

(233L65)







